

平成 15 年 12 月 6 日

第 2 回大学サミット開催

学生からのまちづくり提案～学生としてできること～

本日 6 日（土）、立教大学タッカーホール（西池袋 3-34-1）で、区と区内 4 大学（立教、学習院、大正、東京音楽大学）の共同事業「第 2 回大学サミット」が開催され、4 大学学生が区に対して、イメージアップに向けての提案を行なった。昨年、区制施行 70 周年事業として開催されたこの「大学サミット」、2 回目となる今年は、運営も、昨年大学サミットに参加した OB・OG 達が主体となって行われた。

「大学サミット」は豊島区のまちづくりについて、区内 4 大学と協働で考えていこうという試みで、4 大学の学生達が、区のイメージアップというテーマでプレゼンテーションを行なう。

参加学生は立教大学 7 名、学習院大学 6 名、大正大学 7 名、東京音楽大学 2 名の総勢 22 名。「豊 UP」班、「Sta. としま」班、「School」班の 3 班に分かれて、7 月から提案内容の検討を続けてきたその 22 名が本日、それぞれの提案を競い合った。

午後 2 時から始められた第 1 部では、運営班が学生の視点から大学サミットとは何か、という説明を行なった。その中で、まず、「お笑い村」「映画の街池袋」などの提案が行なわれた昨年のサミットを振り返り、これまでライバル関係にあった池袋駅周辺の映画館が手を結んだ「池袋シネマ振興会」の結成は、「映画の街池袋」の提案がきっかけの一つとなっていると思う、と評価した。また、「大学サミットに参加するまで自分たちは区に何かを与えられるだけだと思っていたけど、区と自分たちは互いに支えあう存在だ」と気付き、2 年目となる今年のサミットは、提案の実現可能性を最大限に重視すると共に、提案で終わるだけでなく、学生として何ができるのか、区は、区民は何ができるのか、といった協働の視点を取り入れた提案をすると、本日のサミットの大きなテーマの一つを語った。

続く第 2 部は、いよいよメインとなる学生たちによるプレゼンテーション。トップバッターとなる「豊 UP」班は「学生よ、地域（まち）へ出よう！」と題したボランティア推進計画で「学生が地域などにボランティアとして参加しやすい仕組みを作ることにより、地域と学生がまちづくりをコラボレートできる環境」作りを提案。紙芝居ならぬ、写真芝居を織り交ぜながら、学生と地域団体と行政 3 者のネットワークを構築することにより地域団体や行政に、PR ビデオの作成や音楽演奏といった学生らしい方法でマンパワーを供給できると提案した。

次に登場したのは、「Sta. としま」班。「池袋駅東口デコレーション大作戦」と名づけ、池袋駅周辺の景観改善策を提案した。初めて池袋を訪れた人にとっては、駅周辺の景観が第一印象の全てで、それが汚いと、豊島区の文化的な側面が伝わっていかない。そのため、小中学生による、ポイ捨て・放置自転車反対のメッセージを込めた絵を、直接歩道に描くことによって、歩行者のモラルに訴え、ポイ捨て・放置自転車を無くそうというのがねらい。

最後を飾った「School」班は学校の統廃合などによって生まれた学校跡地の有効活用を提案。空き教室を、実力はあるものの、発表の機会のない劇団に稽古場及び劇場として貸す「豊島シアターモール」として利用。また、グラウンドや体育館を、安全ですぐに楽しめる、比較的最近生まれたスポーツの練習場として利用することを提案。これらにより、年齢・性別を超えた交流が生まれ、地域文化の育成がなされるメリットを示した。

最もフレッシュかつ実現可能性のある提案に贈られる大学サミット賞は、審査の結果「School」班に贈られ、リーダーを務めた尾崎像一さんは「賞をいただけと思ってなかったので正直驚いている」と言いながらも「4 月からサミットにかかわることで非常に勉強になった。自分たちの提案が実現されるよう願っています」と受賞の喜びを語っていた。

詳細：文化デザイン課